

学校だより



令和5年(2023年)度

2月号

<教育目標> 楽しく 学び合い つながり合う 第七小学校 大阪狭山市立第七小学校

「発達支持的生徒指導」

社会や学校など、子どもたちを取り巻く環境の急激な変化に伴って、学校で行われている生徒指導のあり方も時代とともに変化しています。生徒指導は、行われている内容によっていくつか分類されますが、その中で今「発達支持的生徒指導」が注目されています。

あまり聞き慣れない言葉かも知れませんが、令和4年12月に改訂された「生徒指導提要」には、「発達支持的生徒指導」は、次のように説明されています。

発達支持的生徒指導は、特定の課題を意識することなく、全ての児童生徒を対象に、学校の教育目標の実現に向けて、教育課程内外の全ての教育活動において進められる生徒指導の基盤となるものです。(中略)

発達支持的生徒指導では、日々の教職員の児童生徒への挨拶、声かけ、励まし、賞賛、対話、授業や行事等を通じた個と集団への働きかけが大切になります。…

少々分かりづらいかもかもしれません。要は日々の授業や学校生活の中で、私たち教職員が子どもたちに積極的にあいさつや声かけをすることでコミュニケーションを図ったり、励ましたりすることで子どもたちを元気づけたり、子どもたちが「個」や「集団」として成長したことなどを丁寧に評価することで、一人ひとりの子どもたちが、かけがえのない存在としてとらえ、仲間と協力的な人間関係を築き、お互いの個性や多様性を認め合い、安心できる環境で学校生活を送ることができたりすることをめざすわけです。私は、「発達支持的生徒指導」は全ての子どもたちの成長と発達を支える、とても大切な働きかけだと思うので、常に「意識」して子どもたちと接したいと思っています。

□2学期から特に感じていたことなのですが、登校時に校区を回っていると、子どもたちからのあいさつの声がたくさん聞こえてくるようになりました。私より先に自分から進んで、あいさつをしてくれる子どもたちもずいぶん増えてきました。朝が少々苦手な私にとって、子どもたちのあいさつは、元気をもらえる「エネルギー」となっています。

□5年1組の子どもたちが1月25日に、南河内地区の代表として、大阪府連合音楽会に参加しました。サーティホールという大きなホールで、2曲の合唱曲を発表してくれました。上手な他の学校の発表をたくさん聴き、自分たちの発表が近づくたびにプレッシャーもあったと思いますが、練習の時に学んだことをしっかり出し切ってくれました。他の学校の音楽の先生からもほめていただきました。とても誇らしく思いました。

校長 平島 和